

B-146 着物衿に関する幾何学的基礎研究(才1報) 衿の光学的測定法について

共立女短大 ○吉田悦子 関山和世 綾田雅子

実践女大家政 平岡和香子 共立女短大 岩谷恭子 山口正隆

目的 着用時に曲面化する衿と身頃の衿つけ曲線による相貫構成部の特徴を把握することを目的とし、幾何光学測定法より、実際モデルについての検討を試みるものである。

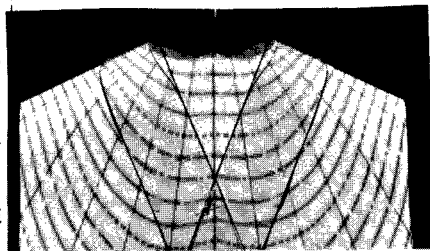
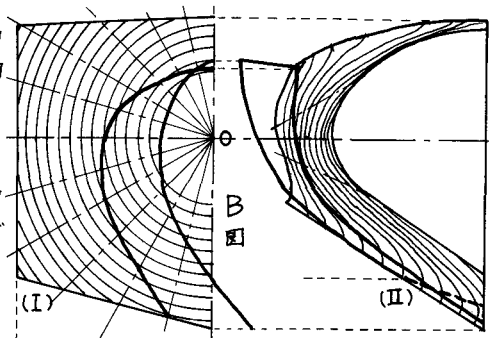
方法 ミラー角度 θ を定めプロジェクターより同心円を投写し、その平行投影線を体型基本幾何モデルにあてた。衿には透明フィルムを用いモデル上にのせた。A図は正面から写真撮影したもので、投影曲線より基準線からの距離

$$a_{\phi} = \left(\frac{\cos \phi}{\cos \theta} \right) t - (\cos \phi \cdot \tan \theta + \sin \phi) l$$

において $\phi = \phi_0$ 、 $\theta = \theta_0$ を設定すれば t と l の関係より交点線位置も同時に求めることができる。

B図(I)はA図の半径線と投影曲線との交点を基準線に対し垂直にのばし、中心Oからの半径線に対応させた平面図で、(II)は側面図である。

結果 上記測定法により幾何図学的表現が可能となった。



A
図